



余暇 事情

JETRO



ケニア

BOP実態調査レポート

ケニアの祝日

ケニア人は祝日好きの国民として知られており、祝日には非日常的なお祝い行事のほぼすべてに参加して楽しく過ごす。私的な記念日から公的な祝日まで(個人、国、宗教、世界的な祝日が含まれる)、できる限りの準備と費用をかけてパレードをする。ケニアの主な祝日は次のとおりである。

新年 (1月1日)	ケニアでも主要な祝日であり、1年のお祭りの季節が最高潮に達するなかで新年を迎える。
イースター (4月)	キリスト教の重要な祝日であるが、日にちは確定していない。キリストの受難、その死と復活を記念して祝う日である。聖金曜日、復活の月曜日(キリスト教のカレンダーで死と復活の日)としても世界的に祝われている。春分からおよそ1週間後の4月に行われる。
労働の日 (5月1日)	労働者の日とも呼ばれる毎年5月1日の祝日である。全国の労働者が団結する日であり、労働者の不満に対処する機会になるとともに、労働に関する問題に取り組むための場でもある。この日は国際労働者の日(メーデー)でもあり、世界中の労働者の業績を祝賀する。労働組合がこの式典を支援している。
マダラカ記念日 (6月1日)	ケニア固有の祝日。1963年に植民地支配(英国)から独立し自治を獲得したことを記念する日。政府が主催する式典が全国で行われ、ハイライトは国家元首(大統領)がナイロビで開催する式典である。
英雄の日(Mashujaa Day) (10月20日)	2010年に現在の憲法が発布された際に、旧名のケニヤッタ・デーから名称と趣旨を変更した。1年で2番目の国民の祝日であり、ケニアの独立と開放のための戦いに参加したすべての者を顕彰する日。マダラカ記念日と同様の式典が行われる。
ケニア独立記念日 (12月12日)	憲法で定められた祝日として3番目で最後の祝日。1964年のケニアの共和制移行を記念する日であり、国で最も重要な祝日となっている。祝典には最も多くの費用がかけられるが、内容は他の国民の祝日と同様である。

JETRO



断食明け大祭 (ラマダン明け)	イスラム教の祝日であり、1か月にわたる断食月、ラマダンの終了を祝う。日はイスラム教の太陰暦に基づく。
犠牲祭 (メッカ巡礼の後)	これもイスラム教の祝日であり、毎年メッカ巡礼の最終日に当たる。また、アブラハムが信仰の証しとして一人息子のイサクを生け贄に差し出そうとしたことを記念する日でもある。
新年祭(ディーワーリー) (10月中旬から11月中旬)	ヒンズー教徒の5日間の祝祭であり、ヒンズー暦でアシュウィン月のクリシュナ・パクシャ(月の光が減少して暗い2週間)の13日に行われる。ヒンズー教の太陰太陽暦で決められ、通常グレゴリオ暦の第4四半期に当たる。
クリスマス (12月25日)	キリスト教徒の祝日であり、イエス・キリストの誕生を祝う日。年末にかけてのお祭りの期間の始まりで、おそらく世界で最も祝われている祝日であり、多くの行事が行われる。
ボクシングデー (12月26日)	クリスマス翌日の1年で最後の祝日。クリスマスのお祝いの最終日。

休日の過ごし方

先に述べたように、ケニア人は祝日好きな国民であり、祝日には多くの行事に参加するのが特徴的である。バスターミナルや空港で多くの人や家族が荷物を抱えて旅に向かう姿を見るのがいつもの風景になっている。休日の長さに応じて田舎や各地の観光地に出かける。短期の休日(一般に1日だけの祝日)には、手間のかからない自宅周辺で友人や親族と過ごす。休日の過ごし方としては次のようなものがある。

娯楽施設	娯楽施設に行くことが休日の過ごし方として人気がある。休日にはホテルや劇場、バー、レストランに多くの客が訪れる。祝日の特別料理(一般にニャマチョマと呼ばれるローストミートや外国料理が好まれる)や、様々な飲み物(酒、ノンアルコールの両方)がある。こうした施設は呼び物を用意しており、コンサートやコメディアン、ミュージシャン、バンドの公演、特別料金の花束など、場合によっては大幅な値引きを行う。
海岸地域への旅行	2日以上の日には美しい海辺を楽しむために海岸地域に出かける人も多い。観光客向けの宿泊施設や食事を利用して、インド洋の心地よいそよ風の中でくつろぎ浜辺の活動を楽しむ。特に新年やイースター、クリスマス、イスラム教の祭日に、多くの人が海岸地域を訪れる。
観光	祝日は観光地を訪れる人が多い。国立公園や遺跡などの名所が人気で、祝日には博物館や霊廟、美術館、史跡、景勝地等にも平日より多くの客が訪れる。
レクリエーション公園 ／スポーツイベント/ 遊園地	都市の中心部にあるレクリエーション公園には、家族連れが集まり、他の家族とともに屋外で過ごしている。娯楽の提供を目的としたスポーツイベントが開催される場合もある。遊園地は、家族と一緒に楽しい時を過ごす休日に最もにぎわう。
その他	外出する余裕のない場合は、自宅で友人や親族と過ごし、特別に用意した料理や飲み物で楽しむ。また、この機会に場所や活動内容、費用を決めて集まったりする。休日を海外で過ごす人もいる。アフリカ諸国、米国、欧州が人気の目的地であるが、アジアも休日の目的地として人気上昇している。



休日の出費

休日の支出額は、交通手段や宿泊先、人数にもよるが、当事者の経済状況により決まる。ただし、特に若者は、こうした機会を楽しむ資金をためて、自分の好きな形で休日を過ごそうとすることが多い。そのため休日の支出額は正確には分からないものの、ナイロビで実施した抽出調査では以下のような結果となった。

休日の活動／目的地	人数	日数	平均支出額(交通費を含む)
海岸地域への旅行	10	4	50,000～100,000Ksh
内陸部への旅行(西ケニア:カカメガ、キスム、キシー)	4	10	15,000～20,000Ksh
内陸部への旅行 (中部ケニア:キアンブ、ニエリ、ムランガ等)	3	10	5,000～20,000Ksh
内陸部への旅行 (東部／北東部:メル、マチャコス、イシオロ、モヤレ等)	3	10	15,000～500,000Ksh
公園、レクリエーションセンター	10	1	1,000～15,000Ksh
娯楽施設	5	1	5,000～100,000Ksh
自宅で	20	5	5,000～50,000Ksh
海外旅行	2	4	100,000～1,000,000Ksh

* ケニアシリング(Ksh)換算レート 1円＝約0.9Ksh(2012年3月時点)

コースト州モンバサ(リゾート地)



JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。